

との境界になつてゐるものらしい。シーバール峠を越えて其の東側斜面に出ると、殆ど垂直の急斜面を爲してゴルバンド Ghorband 川(カーブール川に注ぐパンヂール Panjshir 川の支流)の上流に直下し、それから此の川に沿ふて大體東北東に向ふ約百吉米突の間は屈曲の多い隘路となつてゐるが、此の間では法師も何等記述すべきものを發見しなかつたやうである。今でも法師と同じ見地に立つて見たら矢張り此の邊には何一つ見るべきものはない。此の長い隘路の凡そ中央チャハール・デ Tchahâr-Deh とシャー・ギル Siyâh-Guir'd との間には峻嶒な絶壁があつて、其の上には高い城壁が残つてゐるが、これは回教以前の遺跡であるとは思はれない。此の谿谷は概してバーミヤーン地方よりも氣候が溫和で、又處々に開谿地もあり相當に繁昌してゐる村落もあるにはあるが、確に古代の遺跡であると思はれるものや明かに佛教關係の證跡を留めるものは何處にも見當らない。つまり、安全だと云ふに足らぬ此の地方では寺々も互に談合して主要都市の最寄に集合したものらしい。さういふやうな譯で、バーミヤーンとチャリカールの間には寺などの遺跡は認められない。ヂ